

広島県の田村虎之亮さんから興味深い投稿をいただきました。田村さんは、今年 4 月 30 日～5 月 6 日、友人を訪ねてロシア南部のノヴォロシースクとドンバス（ルガンスク、ドネツク）を訪問。以下は、その簡単な旅行記です。それにしても、現地に心強い友人がたくさんいるとはいえ、行こうと思えば行けるんですね。田村さんの勇気に敬服するしかありません。

なお、田村虎之亮さんは、東京総合写真専門学校を卒業後、ベラルーシのミンスク国立言語大学に留学されました。最近、写真展「EAST #3.5 俺が見たロシア」を開催するなど、広島・大阪・東京を中心にカメラマンとして活躍されています。（編集部）



ルガンスク市内の街並み

投稿《旅行記》

ドンバスの今を見る～ルガンスク、ドネツクを訪問

田村 虎之亮（広島県在住、カメラマン）

どういう縁なのかは分からないがロシアの南部とドンバス地方に友人が点在している。ロシア国内の友人は何人かいるがその殆どはここに集中している。5 月の連休に行く旨を、前々から話していた。ノヴォロシースクに住む友人の R はとにかく私の世話をしたがるのだが、ついにはノヴォロシースクで私が滞在するアパートを提供してくれた。ドンバス地方、ルガンスクの友人は私と行動を共にしてくれるそうだ。

モスクワからバスでルガンスクへ

4 月の終わりにソウルからドーハを経由してモスクワに向かい、翌日の 15 時にはモスクワのシェレメチエヴォ空港に到着した。入国審査で酷い目に遭わされると思っていたのだが、ほぼ素通りで指紋の登録だけで終わった。

空港からバスと地下鉄を乗り継いで中央バスセンターに到着する。ルガンスク行きのバスはここから出発している。隣がショッピングモールなので中を散策すると携帯ショップが見えた。携帯電話の SIM カードを買おうとするが銀行で手続きをしないといけないらしい。時間がないので諦めた。ローミングは楽天モバイルだが直ぐに繋がっていたので問題はなかった。

19:30 にルガンスク行きのバスは出発した。何のことはないただの高速バスだった。ただ、モスクワを離れると携帯の電波は繋がらなくなった。

ロストフ州の検問所を通過

翌日の 8 時前、ロストフ州の小さなバスセンターで小休憩が取られた。電波は回復していたので友人たちに連絡を入れた。それから 30 分ほど走ると高速道路の料金所のような所に停車する。運転手はパスポートを持って降りるように言い、私たちは外に出て中の建物に入ってしまった。パスポートコントロールらしい。要するに、ここはかつてのロシアとウクライナの国境検問所であり、新たに併合した地域に入る場合は全員がパスポートコントロールを受けなければならないということだ。検問所の名前はドネツク検問所、ウクライナ側にはイズヴァリノ検問所と書かれている。

3 列に並び一人一人がパスポートを係の者に見せる。私も同じように立ち回る。訪問目的と訪れるのが 2 回目だと言うと係の女性は内線電話を取り、別の部屋へ行くように言った。別の係の誘導で離れの詰め所に行き、部屋に案内されると迷彩服の男が座っていた。名前と住所、私と両親の職業を聞き、パソコンに打ち込んでいる。友人の話や今の戦争についてどう思うかなどの質問もあったが 20 分程で解放され、バスに戻った。

ルガンスクは変わり映えのしない旧ソ連の街並

それから一時間走ってルガンスクのバスセンターに到着

した。S という友人が手を振って待っていてくれた。私たちは予約したアパートに荷物を置き、街を散策した。特に変わり映えしない旧ソ連の街並みだった。軍用車がひっきりなしに往来している所はよそとは違うかもしれないが。

14 時にドネツクへ行くバスを予約していたので一旦 S と別れ、翌朝また会う約束をする。

ルガンスクから日帰りでドネツクへ

バスはマイクロバスでドネツクまでは3時間半だった。帰りのバスは19時なので、ドネツクのバスセンター周辺を散策するに留めた。それでもルガンスクより栄えているように見える。



ドネツク市内のバスセンター

帰りのバスに乗っていると突然バスが停止し、男は全員降りるように言われる。降りると軍人がパスポートを一人一人チェックしていた。相手が警察ではないからか男達はいくわえタバコをしながらパスポートを見せたり、茂みで用を足そうとしたりとやりたい放題だった。私の番になったが特に咎められることなくバスに戻った。

ルガンスクに戻ったのは23時を回っていた。タクシーも見つからず、アパートまでの道も分からないのでどうしたものかと思案したが、たまたまベンチでタバコを吸っている青年を見つけ、事情を説明してタクシーを呼んでもらった。アパートに向かう途中、大きな交差点で今度は交通警察の検問に引っかかった。運転手と私のパスポートを見せ、どこに行くのかを聞いただけで降ろされることはなく、無事にアパートに帰還した。

ルガンスクの歴史博物館

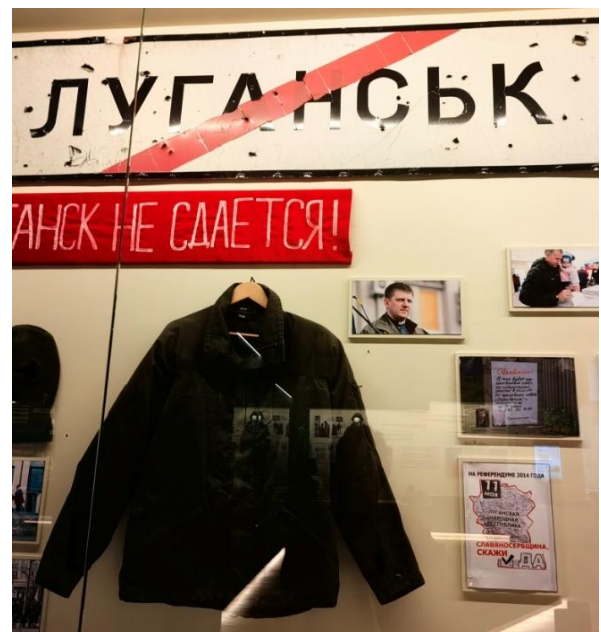
翌朝は友人Aの町へ行った。Aはルガンスク市内からバスで30分離れたЮбилейныйという町に住んでいる(本人は村と言っていたが)。そこへはSと一緒に向かい、バス停でAと待ち合わせた。小さな町で、一時間で1周した。Aは手土産に私にジャムを作ってくれた。

市内に戻り、昼食を食べたあとは歴史博物館に行った。ここにはマイダン革命からドンバス戦争までの資料が常設で展

示されているので、それを見たかったのだ。

博物館を見たあとはバスセンターに戻り、18時のバスでノヴォロシースクへ向かった。(了)

(写真)以下は、ルガンスク市内の郷土資料館の展示資料





モスクワのボリショイ劇場



コンクール期間中だけ飾られているバレリーナのオブジェ

第4回 「徳山あすかのロシア生活」

モスクワ国際バレエコンクール、日本勢が大活躍

6月25日からスタートしていた第15回モスクワ国際バレエコンクールが、7月5日に閉幕しました。

1969年に創設されたこのコンクールは、世界三大バレエコンクールのひとつ。今年は35カ国から362件の応募が寄せられ、動画審査を経て30カ国の158名が参加資格を得ました。このコンクールが行われるのは4年に1回。前回、2022年6月に行われた第14回コンクールでは、政治情勢のため参加を見送った人も多く、21カ国から112名のみのエントリーでしたから、今回はだいぶ増えたことになります。

モスクワ国際コンクールに参加するとボリショイ劇場の舞台上で踊ることができるので、それだけでも若いダンサーにとっては特別な体験です。入賞しなくても、自分をアピールできれば、ロシアのバレエ団における採用のチャンスも広がります。また、すでにバレエ団に所属している若手ダンサーにとっては、あらためて実力をアピールし、昇格や新しい役へのチャンスを掴む機会となります。

審査はジュニア部門（19歳以下）とシニア部門（27歳以下）の2つのカテゴリーで行われ、さらに1人で踊るソロと、男女ペアで踊るデュエットに分かれています。日本からは10人が参加し、素晴らしい成績を残しました。

男性ソロ部門でゴールドメダル

コンクールが始まる前から、きっと一位を取るだろうと予想していたダンサーが、やはり取ってくれました。20歳のグジェレフ瞭舞（りょうま）さんが、シニアの男性ソロ部門で

一位となり、金賞を獲得したのです。東京都三鷹市出身で、ベラルーシ人の父と日本人の母の間に生まれたグジェレフさんは、日本国籍を選び日本代表としてコンクールに出場しました。

グジェレフさんは、昨年ロシアの名門マリインスキー・バレエに入団し、



異例の速さで様々な大役に抜擢されています。現在の階級はセカンド・ソリストですが、プリマ・バレリーナを相手に主役も務めており、バレエ団からもかなり期待されていることがよくわかります。

グジェレフ瞭舞さん コンクールのガラコンサートより

私がグジェレフさんの踊りを初めて生で観たのは、昨年12月のマリインスキー・バレエの公演「くるみ割り人形」でした。今年1月に発行されたJICインフォメーション237号のコラムで、サンクトペテルブルクに弾丸旅行し、ファースト・